

## 二十四節気 2016年 晩秋から冬にかけて

季秋	晩秋	旧暦九月	寒露	10月8日	霜降	10月23日
孟冬	初冬	旧暦十月	立冬	11月7日	小雪	11月22日
仲冬	中冬	旧暦十一月	大雪	12月7日	冬至	12月21日
季冬	晩冬	旧暦十二月	小寒	1月6日	大寒	1月21日

2017年の旧暦一月一日(「春節」)は、グレゴリオ暦の1月28日。

## ★頼山陽『日本外史』卷二十二

大阪夏の陣の最後の戦い「天王寺・岡山の戦い」真田幸村の討ち死に

(原漢文は省略。訓読を左に示す)

…：將軍、行きて前部に至り、令を布いて帰る。兩軍既に近づく。左先鋒の隊將・本多成重(ほんだ・なりしげ)阜(おか)に上りて戦を窺う。忠鞞(ただゆき)・秀政(ひでまさ)・小笠原秀政)と、勝永(かつなが)・毛利勝永)・永応(えいおう)・竹田永応)と、銃手を以て戦を挑む。戦少しく利あらず。幸村(ゆきむら)之に乗ず。成重、顧みて我が軍を鷹く。軍乃ち進む。忠直(ただなお)・松平忠直)曰く「吾、此より直ちに閻羅庁に入るなり」と。因りて餐を呼び、立ちながら之を食う。一人は餐を捧げ、一人は胄を持つ。食畢(おわり)りて胄し、左右に謂ひて曰く「我れ既に食せり。必ず餓鬼道に墮ちず」と。騎して直ちに前む。軍、関して之に従う。忠直の弟忠昌(ただまさ)手づから二人を斬る。成重、吉田修理(よしだしゆり)・荻田主馬(おぎたましゆめ)と、左右より縦撃す。幸村の軍、終に敗走す。追いて安井に至る。西尾久作(にしおひさなり)・西尾宗次(にしおむねつぐ)幸村と闘ひて之を斬る。

【注】○本多成重：徳川の重臣。幼名は仙千代。「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな馬肥やせ」の「お仙」である。○西尾宗次(にしおむねつぐ)：越前松平家の鉄砲組の武士。慶長二十年(1615年)の大坂夏の陣で、安井神社の境内で休息中の真田信繁(幸村)を、相手が誰とわからぬまま刺殺。幸村の首を取る。

## 易水送別

唐・駱賓王(640?~684?)

此地別燕丹 此地の地 燕丹に別る  
 壯士髮衝冠 壯士 髮 冠を衝く  
 昔時人已没 昔時 人 已に没し  
 今日水猶寒 今日 水 猶ほ寒し

エキスイソウベツ。トウ、ラクヒンオウ。コノチ、エンタンにワカる。ソウシ、ハツ、カンをつく。セキジ、ヒト、スデにボッシ、コンニチ、ミズ、ナオサムシ。

【注】易水：中国の河北省を流れる川の名前。○駱賓王：唐初の詩人。ラクヒンノウとも読む。名前は「王」の字を含むが、王族ではない。684年、徐敬業(李敬業)が武則天(則天武后)の専横に反対して反乱を起したとき、駱賓王は「一抔土未乾、六尺孤安在」(イッポウのツチ、イマダカワかざるに、リクセキのコ、イズクにかアる)云々の檄文を書いた。それを讀んだ武則天は、自分を批判する文章であるにも関わらず「これほどの才能のある者を用いなかったのは、宰相の責任である」とだけ述べた。駱賓王は反乱が平定されたあと、行方がわからなくなる。殺されたとも、南方の寺に逃れたとも言われる。○燕丹：古代の燕国の太子・丹のこと。紀元前227年、秦王政(後の、秦の始皇帝)を暗殺するために、荆軻(けいか)という刺客を送り出した。

yí4 shuǐ3 sòng4 biē2      tāng2 luò4 bīn1 wáng2  
cǐ3 dì4 biē2 yān1 dān1, zhāng4 shì4 fā4 chōng1 guān1  
xī1 shì2 rēn2 yì3 mò4, jīn1 rì4 shuǐ3 yòu2 hán2

★ 司馬遷『史記』卷八十六・刺客列伝第二十六・荆軻の条より  
遂発。太子及賓客知其事者、皆白衣冠以送之。至易水之上、既祖、取道。高漸離擊筑、荆軻和而歌、為變徵之声。士皆垂淚涕泣。又前而為歌曰

「風蕭蕭兮易水寒。

壯士一去兮不復還」

復為羽声怆慨。士皆瞋目、髮尽上指冠。於是荆軻就車而去、終已不顧。

遂に発す。太子及び賓客の其の事を知る者、皆白衣冠して以て之を送る。易水の上(ほとり)に至る。既に祖して道を取る。高漸離(こうぜんり。人名)筑(ちく。楽器名)を撃ち、荆軻(けいか。人名)和して歌ひ、変徵(へんち)の声を為す。士、皆涙を垂れて涕泣(ていきゆう)す。又、前(すす)みて歌を為(つく)りて曰はく、

「風 蕭蕭(しょうしょう)として易水寒し

壯士一たび去りて復た還(かえ)らず」と。

復た羽声を為して怆慨(そうがい)す。士、皆、目を瞋(いか)らし、髮、尽(ことごと)く上がり冠を指す。是(ここ)に於(お)いて荆軻、車に就きて去る。終(つひ)に已(すで)に顧みず。

【参考】 昭和37年の大映の映画『秦・始皇帝』(しん・しこうてい)の配役

秦王政(始皇帝)：勝新太郎。燕国の太子・丹：宇津井健。荆軻：市川雷蔵。

荆軻の妻：中村玉緒(筑を奏する)。史実では、筑を演奏するのは高漸離

酬令公雪中見贈

(酬令公雪中見贈訝不与夢得同相訪)

唐・白居易(772～846)

雪似鷺毛飛散乱      雪は鷺毛に似て、飛びて散乱し  
人被鶴氅立徘徊      人は鶴氅を被て、立ちて徘徊す  
鄒生枚叟非無興      鄒生、枚叟、興無きにあらず  
唯待梁王召即来      唯だ梁王を待つのみ、召ばば即ち来たらん

レイコウのセツチュウにオクラるるにムクゆ。(∴レイコウのセツチュウにオクラれ、ボウトクとトモにアイオトナわざるをイブかるにムクゆ)。トウ、ハツキヨイ。

ユキはガモウにニてトびてサンランし、ヒトはカクシヨウをキてタちてハイカイす。スウセイ、バイソウ、キョウ、ナキにアラず。タダリヨウオウをマツのみ、ヨばばスナワチキたらん。

【注】唐王朝の宰相で中書令となった文人政治家の裴度(はいたく)はいど。765年(839年)は、同じく文人政治家であった白居易(白楽天)や劉禹錫(劉夢得)と親しく、たびたび自宅に招いた。あるとき、劉禹錫だけが裴度の邸に行き、白居易は行かなかった。裴度はそれを訝る漢詩を書いて、雪の日に白居易に贈った。それに対して、白居易が返信として応酬したのが、この七言絶句である。「令公」は裴度を指す。○鷺毛∴古くはガボウとも読んだ。ガチョウの白い羽毛。○鶴髦∴古くはカクジヨウとも読んだ。ツルの白い羽毛で作った衣。仙人や隠者などが着た。ここでは、雪のなかを歩く行人の衣服に雪がふりかかって白くなった様子を喩えている。○鄒生・枚叟・梁王∴いずれも人名。南朝・宋の謝惠連の韻文作品「雪賦」をふまえる。かつて梁王は、友人や文人を呼び、雪が降る風流な景色を文学作品として詠ませた。

chou2 ling4 gong1 xue3 zhong1 jian4 zeng4  
(〜) ya4 bu4 yu3 meng4 de2 tong2 xiang4 fang3) tang2 bai2 ju1 yi4  
xue3 si4 e2 mao2 fei1 san3 luan4 / ren2 pi1 he4 chang3 li4 pai2 huai2  
zou1 sheng1 mei2 sou3 fei1 wu2 xing1 / wei2 dai4 liang2 wang2 zhaou4 ji2 lai2

【参考】能「鉢木」(はちのき)より

佐野源左衛門常世(さのげんざえもんつねよ)と、旅の僧に変装した北条時頼の話。

シテ「あゝ降つたる雪かな。如何に世にある人の面白う候ふらん。

それ雪は鷺毛に似て飛んで散乱し、

人は鶴髦(かくしやう)を着て立つて徘徊すと言へり。

されば今ふる雪も、もと見し雪にかはらねども、

我は鶴髦を着て立つて徘徊すべき。

袂(たもと)も朽ちて袖せばき、

細布衣(ほそぬのごろも)陸奥(みちのく)の、けふの寒さを如何にせん。

あら面白からずの雪の日やな」

★来年、平成二十九年の干支は丁酉(ていゆう)。ひのととり)

★『戦国策』より、蘇秦が韓王に「合従(がっしやう)」の戦略を説く場面。

寧為雞口、無為牛後。

寧ろ雞口と為るとも、牛後と為ること無かれ。

ムシろケイコウとナるとも、ギユウゴとナるナかれ。

★『韓詩外伝』卷二より、魯の哀公に臣下が「鶏の五徳」を説明する場面。

君独不見夫鷄乎。首戴冠者、文也。足搏距者、武也。敵在前敢鬪者、勇也。得食相告、仁也。守夜不失時、信也。鷄有此五德。

君は独り夫の鷄を見ざるや。首に冠を戴くは文なり。足に距を搏するは武なり。敵、前に在りて敢鬪するは、勇なり。食を得て相告ぐるは、仁なり。夜を守りて時を失はざるは、信なり。鷄に此の五徳有り。

キミはヒトリカのニワトリをミざるや。クビにカンムリをイタダくは、ブンなり。アシにケヅメをハクするは、ブンなり。テキ、マエにアリてカントウするは、ユウなり。シヨクをエてアイツぐるは、ジンなり。ヨルをマモリてトキをウシナわざるは、シンなり。ニワトリに、コのごトク、アリ。

### 魯山山行

北宋・梅堯臣(1002～1060)

適与野情愜	適しく野情と愜い
千山高復低	千山 高く復た低し
好峰随处改	好峰 随处に改まり
幽径独行迷	幽径 独り行き迷ふ
霜落熊升樹	霜落ちて 熊 樹に升り
林空鹿飲溪	林空しく 鹿 溪に飲む
人家在何許	人家 何許にか在る
雲外一声鷄	雲外 一声の鷄

ロザンのサンコウ。ホクソウ、バイギョウシン。マサしくヤジョウとカナい、センザン、タカクマタヒクシ。コウホウ、ズイシヨにアラタまり、ユウケイ、ヒトリユキマヨウ。シモ、オちて、クマ、キにノボリ、ハヤシ、ムナしく、シカ、タニにノむ。ジンカ、イツクにかアる。ウンガイ、イツセイのケイ。

【注】魯山：別名は露山。河南省の魯山県にある景勝地。梅堯臣は1040年にこの地に遊び、この五言律詩を詠んだ。○野情と愜い：野や山で遊びたい気持ちにぴったりあう。○好峰 随处に改まり：良い形をした山は、道を歩くにつれてその姿を変える。○幽径：ひとけのない静かなこみち。○林空しく：森の木々が落葉したさまを指す。○雲外 一声の鷄：山に立ちこめる雲煙(うんえん)の向こうから突如として鷄の鳴き声が聞こえてきた。そのおかげで、人家のありがわかった。

lu3 shan1 shan1 xing2      bei3 song4      mei2 yao2 chen2  
shi4 yu3 ye3 qing2 qie4 / qian1 shan1 gao1 fu4 di1  
hao3 feng1 sui2 chu4 gai3 / you1 jing4 du2 xing2 mi2  
shuang1 luo4 xiong2 sheng1 shu4 / lin2 kong1 lu4 yin3 xi1  
ren2 jia1 zai4 he2 xu3 / yun2 wai4 yi1 sheng1 ji1